

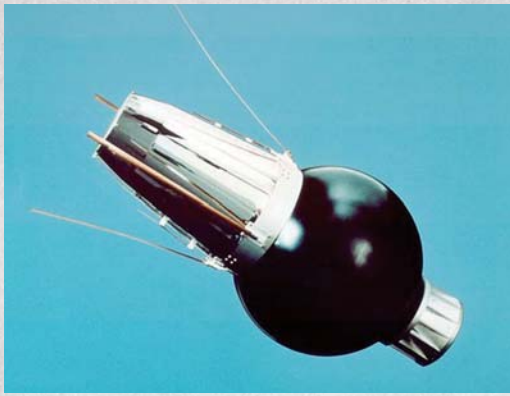
きまひつぎ宇宙ニュース

「人工衛星」おおすみ

今年、人工衛星「おおすみ」が内之浦宇宙空間観測所から打ち上がり、50年目の年です。そこで今月号から、宇宙に関する話題を紹介するコーナーを設けました。

第一回目となる今回は人工衛星「おおすみ」についてです。すでに馴染み深い方もいるかと思いますが、節目の年ということで取り上げさせていただきます。

(左・「おおすみ」の写真)



↑ トンガリ帽子のような部分に加速度計などが積まれている



↑ 資料館に展示されている、当時実際に使われていたロケット発射指令管制装置

「おおすみ」は、ミューロケットによる人工衛星打上げ技術の習得と、衛星についての工学的試験を目的として打上げられた、日本初の人工衛星です。全長約1m、質量約24kg、名前は、当時ロケットチームを率いていた玉本章夫氏が打上げ地に因んで命名されました。打上げ日時は1970年2月11日13時25分、L-4Sロケット5号機に搭載されていました。

1966年から打上げ実験が開始され、4回の失敗があり、5度目の打上げでついに成功しました。

その背景には地元の方々の支えがありました。ロケット発射場が設立されると決まる前から内之浦町は全面的に協力する姿勢で、地元婦人会の方々は建設当時から協力をしてきました。ロケット打ち上げの際には千羽鶴を折り、みんなで打上げ成功を祈願しており、その風習は今現在でも残っています。



↑ 内之浦婦人会から激励の千羽鶴



↑ 観測所近くのジュピターブリッジにも「おおすみ」のモニュメントがあります。

打上げ後、通信が途絶えてからも約33年間地球周回軌道上にありましたが、次第に高度が低下し、2003年8月2日午前5時45分に大気圏に再突入し、燃え尽きました。

実際に地上と連絡を取っていた時間は14〜15時間ではありませんでしたが、打上げ関係者や、地元の方にとって大きな印象を残していたと思います。

そして、日本で初めて打上げに成功した人工衛星として、後の打上げ技術に大きく影響を与えることとなりました。